

教育事業

ボランティアリーダー養成事業

「ボランティア活動入門セミナー」

1 趣 旨

- ・ボランティア活動を始めようとする青年に、ボランティアについての学びの場を提供することで、社会の様々な場面で主体的に活動しようとする態度やボランティア精神を育む。

2 事業の概要

- (1) 期 日
- 第1回 平成27年4月18日(土)～19日(日)【1泊2日】
第2回 平成27年5月15日(金)～17日(日)【2泊3日】
第3回 平成27年5月29日(金)～31日(日)【2泊3日】
- (2) 参加者
- 第1回【ボランティアスタッフ編】29名(大学生29人) ※募集30名
第2回 25名(大学生21人、高校生4名) ※募集30名
ボランティアスタッフ11名(大学生11名)
第3回 37名(大学生34人、高校生2名、社会人1名) ※募集30名
ボランティアスタッフ11名(大学生11名※第2回とは別)

(3) 研修内容及び講師

【第1回(ボランティアスタッフ編)】

1日目	午後	○プログラム体験①「牧場見学」協力：福間牧場 ○プログラム体験②「野外炊飯：ビーフカレーをつくろう！」 指導：交流の家職員
	夜	○ボランティア活動入門セミナーの話し合い①
2日目	午前	○プログラム体験③「バウムクーヘン作り」指導：交流の家職員
	午後	○ボランティア活動入門セミナーの話し合い②

【第2・3回】

1日目	夜	○講義「交流の家ってどんなところ?」「心と心をつなぐアイスブレイク」 (青少年教育施設の現状と運営) 指導：交流の家職員
2日目	午前	○講義・演習「救急救命講習」講師：大田市消防職員
	午後	○プログラム体験①「竹を使ったバウムクーヘン作り」指導：交流の家職員
3日目	夜	○プログラム体験②「キャンドルのつどい(先輩ボラ企画)」
	午前	○講義・演習「青少年教育の理解」「ボランティア活動の理解」 講師：NPO 法人学生人材バンク 田中玄洋 氏
	午後	○講義・演習「青少年教育施設におけるボランティア活動の理解(先輩ボラ企画)」 ○ふりかえり・クロージング・ボランティア登録手続き

3 成果と課題

《成 果》

【第1回(ボランティアスタッフ編)】

- ・【第2・3回】でのボランティアスタッフ(以下、先輩ボラ)と企画に携わりたい法人ボランティア(大学3年生以上)を対象として、1泊2日の日程で実施した。プログラム体験をはじめ、生活面でも共に行動する機会を増やすよう、日程を設定したことでボランティア同士の交流も深まり、

先輩ボラ企画の話し合いも活発に行われ、有意義な時間となった。

- ・ 「バウムクーヘン作り」では、手順や安全管理上での留意点を確認し合った。【第2・3回】で参加者をサポートするための有益な情報交換ができた。
- ・ 地域連携プログラム「牧場見学」で牧場主との会話を重ねたことで、仕事で得られる達成感や充実感などについて理解を深めた。

【第2・3回】

- ・ 例年、参加者の多くが大学生であり需要も高いため、今年度も2回実施した。当施設の立地状況を鑑み日程に余裕をもたせるため、今年度も金曜日の夜からの2泊3日で計画した結果、多くの参加者が集まった。島根大学教育学部と島根県立大学出雲キャンパス・浜田キャンパスの2大学3キャンパスの学生が主な参加者であった。今年度、これまで広く広報してきたことが実を結び、2大学3キャンパスの他に、島根県立大学短期大学部松江キャンパス・松江工業高等専門学校・県外（岡山県、広島県）の大学生、近隣の高校生・社会人と多様な参加となった。
- ・ 参加者の人間関係が高まるよう4～6人のグループを結成し、グループリーダーとして先輩ボラを配置した。グループは、可能な限り異なる所属の者が集まるように編成し、先輩ボラがサポートするよう配慮した結果、「連絡先を交換しよう」という声があちこちで挙がるくらい、参加者同士や参加者と先輩ボラの新しいネットワークの構築が図れた。
- ・ 講義・演習「青少年教育施設におけるボランティア活動の理解」とプログラム体験「キャンドルのつどい」を先輩ボラが担当した。先輩ボラが当施設のボランティア活動や体験談を語ることで、参加者は「三瓶でのボランティア活動がよく分かった」という感想を発表するなど理解を深めることができ、先輩ボラにとっても企画運営を学ぶ良い機会となった。
- ・ 講義・演習「青少年教育の理解」「ボランティア活動の理解」では、講師からボランティア活動における基礎的な知識や技術について学ぶことができた。また、グループで話したり聴いたりすることで、コミュニケーション能力を向上させる契機となった。

《課 題》

- ・ 昨年度末の段階でボランティアスタッフの希望者が多数いた。そのため、ボランティアスタッフを募集・決定する条件として、①法人ボランティアであること、②当施設でのボランティア経験の有無を挙げた。また、③同一所属先に偏らないようにそれぞれの所属先毎に人数を制限した。来年度も中核を担う法人ボランティアと意見を交わしながらスタッフを決定する必要がある。
- ・ 先輩ボラ企画は、先輩ボラにとって企画運営する貴重な1コマである。今後も【第1回】での話し合いの時間確保や担当職員との連絡をより密にしていく必要がある。

